類題發句集　秋

類題叢句集秋部

七月

蝶夢編

立秋

秋来と雨にとるる萩の露　重頼
ひらひらと木の葉を動く秋の風　宗賀
来る秋の風にかりてもかりの
姿なりけりや月は高き雲の色　北枝
秋の月中は吹き雲のうち　萬海
蛙子の声にうつりやはぎの秋　尤次
秋の色ぞ深ぞ[illegible]　尚志
　　支考

初秋

[illegible]　　扶風　吾仲
[illegible]　　青字
[illegible]　　玉川
[illegible]　　柳居
[illegible]　　後川
[illegible]　　通山
[illegible]　　芭蕉
[illegible]　　風外
[illegible]　　[illegible]元

一葉

桐の葉も散りしく井戸の水　　徳元
散る度に一度ずつ桐の二葉哉　　明水
桐の葉や落る沼なほ小雨ゆる　　苔蘚
一つ葉の葉もうらわく桐の葉哉　　高忠
[illegible]の葉も落るも下に虫ばら　　宗賢
[illegible]の秋の[illegible]八月[illegible]の一葉に　　すてく
桐の葉やいくくく桶の水けけ　　芙花
おち葉木や一葉落ても踏るく　　芙仗　洛木
[illegible]の桐のとなり　おちへ[illegible]　　伊勢　山川
[illegible]掃[illegible]　　風徐

柳散

楸散

挑燈籠

摂待

葉ゝちりてすくかゝる斎かな　三千風

ちる影ハ枝数の影やちる柳　去芳

あれこれと枝にうつる風の柳哉　兎士

ちる柳去年一しほのほつれかな　駿河 夢舟

高燈籠昼は物うき柱かな　千那

山寺の崖ちりたる文燈籠かな　孫九

人竜の消して挑燈籠かな　言水

高燈籠梢の秋をまちかねて　蓬之

摂待やあくさの茶の花かな　蹄風

硯洗

七夕

きりぎりすの案は茶や萩まで記　若狭 去留

摂待ありし人我ともなり　尾張 俊似

硯洗ふ日や潟ゑ涼御濯水　江戸 忘清

おもひくさ硯あらへる星まつり　美濃 村節

七夕や秋をさだむるはじめの夜　芭蕉

秋の木の葉にまじる星の影　、

笹竹の葉ありて枕つくやすまし　乙角

婦とはなるゝ七日の夜のなやみ　猿雖

七夕や鴨川まで牽牛くる　嵐雪

月入てともしつくりて星の閨　去芳

河舟やはつきさやく秋の声　苔本
秋さむさは先や星のあらら　乙由
七夕やくもの人り雨夜もあるら　兎士
指さしてくもの影をいか夜ふ　木兒
文月やあの田ゆとあるもの河　性能
七月のさゝ波歌あるあり川　如月
去夜ゆかりかもうる天の河　鬼貫
大切の歌あるうるもの河　玄角
おゝ船はしてあるあの田舟川　山傳
夜つ船りあるくのまを天の河　珈琴

玉の川

二ゝ玉あるあ奥ゝ河の戸船川　文蝶
松風蓑蓑こ毛吉や玉の河　門弱
玉の川東へ流を志ゝ月ら　秉工
橋ゝかゝる鳥あるあ夕の波　其角
かゝゝ船やゝ橋も一夜のうけ流　呉服　梦蹊
河舟や簪女も歌の糸ゝん　嵐雪
色ゝくまを深あを糸乃ゝ流ゝ　松舟
立ゝ橋ゝ秋の志ゝ虫の色　可風
立琴やひゝて根蓑数をゝん　麦宇
秋よもゝ月と来りゝ芒の蓑　武義　西羊

鵲の橋

彦星

立琴

芋の露

桐の葉　桐ふるや素水に置の秋の雨　由平

桐の葉ふれ反古や半の秋の月　尾張　宇冬

七夕祭　星ぬらす戸ぐちぐちく鶏の鳴　熊本　知

蓮の峯入　峯入やはるばる経も次ぎ立ち　馬六

迎火　おもひ〳〵に拍子ぬけする迎火　嵐雪

盂蘭盆　盂蘭盆ちらそ秋の気は来りけり　京　富治

衣尺を等賣たら盂蘭の市　駿河　桂子

盆の月　夜あらと帝しの歌や盆の月　江戸　由水

踊子へ来て酔さく盆の月　句定

李由

亮祭

盂蘭月亮と月を門とあるかな　師般

海さびしく立ちさびし亮祭　季吟

亮祭の墨ちりうや新の数　去来

霊棚やうれさくく茅子ぬく　嵐雪

食物もみな水くさし亮祭　〃

紀の小尺しくしくや諸の亮戸つり　其角

盛亮も出さくかりの世は線香ぶり　文草

たが祭こうれ先に庭よ書さく　師般

香炉煙やうけふ亮祭　洒堂

玉まつりを燭ら居さと亮祭　北枝

棚経

流まつの緑ゆゑ女房淀君に　浪化
什麻成新ゆゑ和尚ゆゑ　冰花
市の家ゆゑ市ふ竹をうゑ　薩摩守
竜胆や独ひのへく暮くれ　城中 温故
古墓ひら君ゆゑ竜胆　恐天
流れ月ゆゑ猫ほ笑へし　伊達
たま棚や竹もゆへ子の新　寧陀
竜棚や隔り数のなくあくら　伊馬 涼袋
棚経や多ゆゑ捷第　涼秀
棚経やあいさつもなく帰る　如行 伊勢
　　宗瓜

蓮飯

松の葉ふりつむ城蓮飯　一茶
新の枝よりし果や桃麻木　支考
なの新人弘数を麻木より形ゆ　青矩
あるし世や麻木の美代ゆゑ　江戸 全峯
美くや美ゆゑ萩賣の　京 也明

蔓尾草

蔓尾草の被ゆ新潟の郷　梅氏
家ゆゑ乳枝ゆ弘数の蔓糸　桃妖
尺しへも孫ゆし来て蔓尾ゆ　芭蕉
竹篭の蔓糸蔓人ゆ和まん　去来
　　一笑

生玉

蓮之

乙徳

方山

其角

与考

汝村

木因

六吉

玄甫

伝法

梅笠

生弼の身のあくさこそや養系
玉のまれ宗有くや養ろう
せ先くを忘の背よるをて生玉
生玉霊仙のさうゑ歌又ゝ
焼養ろうをて自然ゝ生玉
ちはまハふるゝ玉や生弼碗
蓮葉ゝ拉玉の結よちゝ竜
送り火や娑婆の思れ我玉
の、老ゝく蓮の系拾るゝ
送り火や野ゝ野ゝ独ゝ云

送り火

舟弘火

焼竜

大文字火

妙法の火

送り火や幽ゝひ蓮と水の上
ゝり火や娑婆ゝ弱ゝ蓮の系
大文字や一竜山伐深ゝ先
妙弘字やゝ松ゝ嶋ゝ生ゝ第林
神を焼くゝ火弘ゝ竜ゝ秋の風
舟の火ゝ消ゝ竜ゝ和ゝ青の海
月ゝ人ゝ四ゝ竜ゝ焼竜ゝ海ゝ
山ゝ梁の久ゝ竜ゝ切竜ゝ
同ゝ灯ゝ切竜ゝ月ゝ竜ゝ
盂ゝ竜ゝ秋ゝ竜ゝ焼竜ゝ

京

杜若

巨洲

鍬髮

友春

汽宮

北尭

其角

尚白

木因

嵐雪

踊

彦さ京の祇園祭り月夜に
尺ちものを撥立させる祇園に
灯籠り夜の涼風小路の那
吹きて来るは乙女地蔵に
踊り子の新と背りる切籠乳
一巡り待人連れとやらる乳
我が戸ら小通る踊の那
小娘のせさ乳ちしけ踊
吸ぬ乳ちものを戻を踊乳
茶すを出ぬ一汗出やらに

江戸 赤阪 所収
絵さ 己静 同館
京尾 尚白
万平 其角
与考 三恪

解説草
祇園祭
書又入

辻踊り一踊しく女小米
新夕よ子ら見ら乳踊の那
踊子や京の祇園多い中
踊子や欲の式を高けて
好し乳男よ米ら乳ちに
我新ら惚ら文明踊の乳
毎夏ちやまらよ乳し茅輪
化粧しら祇園や京の辻
やふよ戻ら京踊ら乳
義入や親ちら負し吸し

約童 丁人 遠之
西波 馬明
俳後 観道
相雨
江戸 寒玉
江戸 許六
江戸 泉斗

花火

相撲

扇置

捨団

初嵐

江戸 神叔　甚雨　七星　太来　元堂　甚角　許六　風仙　史邦　山鋒

立吟　涼菟　冰花　小春　拳也　尚白　啓元　利安　子川　貝葉

秋八

秋風

[illegible]　洞子
あらく日もつれなく秋の風　芭蕉
秋風や義も畑を不破関　〃
牛部屋の飯の臭ひ秋の風　〃
うらうらとめ手ぬ書や梅の影　枚風
梅風の吹るるうらうら書哉　象夏
あるれ家ふるめく秋の秋の風　〃
秋風のんらんまぬ蹴出くるし　嵐雪
芋ほり家四郎ばらこく鶏の風　花弓
投付しら数のとまる秋のうち　宵良

別さしつつり売り秋のうち　曲翠
約計やなくうまうる秋の風　正秀
夕敲の京をとる見るうら焼風　外高
[illegible]おうと加見りし秋のう[illegible]　越人
秋風や稲こる出く稲こる人　支考
させと家を伝のよるの風や焼の風　万子
秋風や萩ぬり出く波の高　徹通
秋色火と変あくるる秋風　子那
秋風やうまを管して百の髪　許六
　　希因

月まち入

冷々

秋暑

露

月は高野や青嶺の寒さあり　真角

雅ちしをつゝり風袋高野山　芭蕉

冷〳〵と壁をはなれて壁際　丶

梢ゆく秋の雲ゆ秋の雲ゆ　支考

やく〳〵の萩もこゝけと暑ゆ　田翠

秋もゆく指ゆしゝ新月さゆ　乙由

冷ゆ寒や学ぶなる貴所　宗因

鈴寒や独の附て芝の起ち　去来

苔の寒ゆ秋ゆ高野の宝　嵐雪

冷ゆ指ゆ三千世界の山　荷兮

霧

胡蝶や我巣新ら牛蒡古　前口

苔の露風ふ〳〵と伊の道ち　助叟

苔ゆ冷ゆ仏ゆ仏ゆ冷ゆ　之白

名月の蕎や雲ゆ雲ゆ蕎ゆ　北溟

雅ちつゝの花一色ゆ月ち　可孤

鈴蕎や廊下茂ち鈴人水鶏部　涼莞

鈴蕎や高人水鶏部　若角

月ゆ月ゆ高人水鶏部　小枝

帆柱の高ゆ蕎の雲ゆ冷　可孤

川ゆ月ゆ高ゆ月ゆ高ゆ蕎の雲ゆ　俊法

鈴蕎の栗や冷ゆ月ゆ高ゆ蕎ゆ　之雪

稲妻

朔旁や伊賀の[illegible]
[illegible]や学[illegible]
稲つるや周の[illegible]
稲妻や[illegible]
いなびかりや[illegible]
かれつるの加[illegible]
稲つまや二[illegible]
いれ書や[illegible]
稲は戸の[illegible]
稲つまや[illegible]

天和 朔旁
元禄 不文
芭蕉
、
其角
去来
和及
揺雲
文字
山夕

秋十一

稲つるないく[illegible]
いれつまのか[illegible]
芋書やい[illegible]
稲書やく[illegible]
稲つるや筋[illegible]
いなばやや石山寺の石[illegible]
稲書や[illegible]
かれ書や山[illegible]
いなつるや[illegible]
稲月まや伊賀一[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
、
摩耶
松居
[illegible]
希因
[illegible]
寸馬

草花

芭蕉
低耳
文考
[illegible]
出羽 ゆや
己苑
芭蕉
宗葉
秋風
[illegible]
仁人

草色〳〵おのく花乃ほの〻
知られぬ〻ちさ〻乃ほや草葉
草花や秋ちり敷よ松あらく
はりたに有る名を問ん仕中禁
やれ〻ふ〻くのそうそう草の花
我もまよ咲てもやさし草花
乃のく孤木槿ちるよ食ん物
知ふるも法もなく木槿〻
ほとゝけ〻ぎらく〻ちるけ〻
木槿の跡の新出たまく弟れ

木槿

乃露
庶元
江戸 発士
鍋石
[illegible]
梁一
芭蕉
涼菟
芙蓉
一万子

海〻ひ〻りの垣よ完あく木槿〻
ま〻一日〻〻〻〻〻弟〻
翌日の弟咲ち〻木槿〻
秋の菜ふ〻ま花〻〻〻〻れ
一日寿〻ものよ八年咲ちけ〻
あ〻ち日の表ちさ〻む〻弟
ひ〻ろ〻〻〻〻〻ち〻〻〻や女郎花
弟ち〻ち〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻
黄よ菜て拍ち〻〻〻や松れへし
小刀ろ〻ほと魚〻〻〻〻女郎と

女郎花

無[illegible]通てぬるや女郎花
撫[illegible]ひ[illegible]ぬ[illegible]
次[illegible]へ[illegible]
東中にひらひらるゝ女郎花
我[illegible]
恋[illegible]
秋の[illegible]
つ[illegible]
[illegible]
蕭や[illegible]須下[illegible]

芦本
かが賀 封ト
涼袋
秋仙
[illegible]太
斜嶺
かが賀 半醒
江戸 年路
枝風
芭蕉

秋十三

男郎花

蕭

朝[illegible]
[illegible]
蕭[illegible]
胡[illegible]
[illegible]
[illegible]
朝[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

破笠
史邦
戈[illegible]
十丈
[illegible]元
[illegible]士
[illegible]静
[illegible]
紙[illegible] [illegible]
秋[illegible]

瓢

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

千代也有
桃妖
涼菟
許六
風章
園解
京 己氣
丹後 芭村 風章

萩

盗人[illegible]
[illegible]
[illegible]
山萩の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

素堂
芭蕉
江戸 序志
言水
李由
禹洲
京 [illegible]人
文素
秋瓜
[illegible]太

萩

心萩や蕊ふるまでも花の哀　越後　梅二
秋風の口まねするや萩ぶすま　季吟
萩ぶすまや月射して後の音　尚白
折〳〵や雨石なさいう萩乃吉　雪芝
淋しさう強いく尺の風の萩　春平
萩ぶすやまいるもうの秋しき　徐夏
庵よ白くて白乳菓の花　巡静

菓

梅寒し蓮も華し蘭ぶすま　文素
菓のこと為の先く菓の白乳　江戸　子砂
清を貯う妻おりらふのさか　周弁

秋十五

蓼襪
芭蕉

弓圓こ敷比ふれや蓼ちる毎
弁こ形り帆〳〵ふる風の芭蕉ふ　一扇
こ也ぶ敷ふ也ふ月弥彩　乙州
は世をとやと立ふ寺古寺　春川
己合ふ〳〵家〳〵もあく芭蕉ふ　可風
破敷風ふ風ふひく色ふる風　越方　蕉雨
小車や也こ沖蓼のあり流　尾張　珊瑚
独ひ〳〵も天ふ〳〵敷桔梗ふ　霞川
花桔梗口閉こ居て不撓ふ　紙色
秋田ちく〳〵ふ也桔梗の蓼風　古次

小車の花
桔梗

犬子草　　芭舟
角力草　　千代
仙翁花　　乙妙
葉波草　　乙由
舞草　　左逸
夢詩波花　　七雨
秋の日ぞ咲やいとてれ葉波草　　李溪
幾つ咲ぬ十日ゝ恵比　　苦雫
舞草二百十日ゝ恵比　　涼苑
ひ〻ま月のついは破ゝ　　可麿
桔梗の花咲時ゝ云そゝれ
栗の実孔のゝやまゝ
和歌の笹
相ゝ投出ゝ
秋の日ぞ咲やいとてれ
幾つ咲ぬ十日ゝ恵比
舞草二百十日ゝ恵比
桔梗の花咲時ゝ云そゝれ

矣花　　斗周
千日和　　泰國
蕎麦花　　隆五
刀豆　　三四
鶏冠花　　発貫
蓋母草　　清漢
西瓜　　其角

やいゝ花子たのひゝ桔梗ゝ
千日和千鶴ゝ
花蕎麦ゝ
刀豆や七日八日の月ぞ
鶏冠ゝ
蓋母草ゝ
西瓜ゝ
ゝ
許六

絲瓜
蕃椒

文亮
去来
龜甲
治兵
勘解
長松
江戸 林賀
芭蕉
未節
路坡

木瓜の実
蓮実兎
早稲

来山
尾張 四美
嵐川
信中 冥明
紫の 波路
薩摩 製文
猿雖
芋年
拙几
乃龍

焼米
秋の蚊
秋の蠅

しろかひのつひくや子鴉のむし　芙雀
荊かくしやきれり鴉かり　嵐雪
子鴉も穂に出て大寺の京急　林司
焼米や麻きく人りすかな　寸路
形ら蚊や忘れ時来秋の雨　四友
秋かなや色くまへく虫むすと　文英
あれの蚊や友の蔵かと泣くらう　京 呂言
秋の蠅障子をめつて追出す　野堂
いくほとて日本追ゆく秋の蠅　琴風
る形庵に帰り捨けりや蜂老蠅　虚白

秋の蝶
穐の蛍
秋の蟬

性子のかゐはあやしき梅の蝶　文彦
耳さへ見え萩に胡蝶あそびかな　和及
ぬれつらは花はくれ月秋のてふ　可風
折てくる手けな花やけふの蝶　山城 雨麦
きえはてぬ花にや秋の蝶　備後 古声
露ほとに光りて秋の日の晴れる　北若寄
秋の雨見せぬ蛍のあはれかな　一笑
ぬれ衣のまと迷ひて飛ぶ穐の蟬　文字
う執牢の追へあまる秋衣更　吹山
已に理をひとつのうてや秋の蟬　才人

蜩

蜻蛉

いくとせの果かくや秋の蟬　文素
泣くも餞よひのなく蝉の蟬　伝法 秋水
秋のせミ泣つくしたる声　丹後 杞柳
日くらしや撞く迄も暮る日を　すて
蜩や山田我蔵水もなき　諷竹
まだ蟬の声あまりかゝる月夜　有琴
日くらしやまかの艶を打射　里桂
幻の秋を見り動やさ蜻蛉　支考
蜻蛉の都も大しく国まかれ　恕見
まさ山や蜻蛉ついり流へ泊る　秋之坊

松虫

鈴虫

轡虫

蚯蚓鳴

蜻蛉の塔我抱かれぬ日和　沾荷
松虫や何の味あるや身先　孫九
とんぼうやまつ射つる上の上　芝蕉
とんぼうや追かけられ孕女　近江 竹雨
松虫の鳴や夜食の箸の足　許六
鈴虫や花の下行我捨てる　也静
鈴むしや嫁り出たる子の我まち　みの 石柯
猪坂へ嗜るや駒も轡むし　支考
御通りの跡まさびしや轡虫　越中 松宇
蚯蚓鳴花や墨田の婆か家　昌房

蟋蟀

小蟋蟀枕のもとや机のもとに
あるけるに寒さを知るか蟋蟀の
なき
ちゝのあまり抜て捨てなく次
灰汁桶の雫やこぼるきりぎす
芋の葉にすだく蟋蟀の
葉の色に鳴ぬるかな
桶の縁や机の下や虫籠
きりぎすの鳴きそめよまこと鶏冠
あのあるやあるよもすがら鳴く
鳴ずとも寒さを知るか夜々鳴く

芭蕉
太祇
丶
凡兆
嵐川
風体
羽紅
舎羅
後君
雨流

秋二十

機織

蟷螂

蟷螂の斧をもて敵に向ふ
嘆や灰屋紹巴
きぬ〻我も壁にすだく蟋蟀
新しく人とやもうし機織次
聖院ふも機織虫の声
機織や宮ふも物の糸仕事
もく織やよもあけがたも松子
蟷螂老ぬるよ陶の赤ゝ乳
かまきりや袖抑へよまそうの
うなまうや刀豆ひろひ切義

范字
洛ゝ
以越
季吉
巴静
乙徳
乙筑
史邦
十丈
徳之

蘭馬　孫弘義子老吉先生に[illegible]
千鍾房国へかゝらるゝ歌竜馬
浦士の家八小海老よゆゑいとゝ共
昌方

きりぎす　あゝ浦よりやゝ歌よ色つく袋入れ
こゝろ花や美く迫り猛者工
許六

藻の虫帝　藻よ虫孔なくや入江の夕日新
もの虫やゆゑ千鳥て鳴て居
芭蕉

蓑虫帝　蓑虫や取よ似合ゝ哀然ゝ
蓑虫や嵐の時く枯木の風情ゝ
芭蕉

いもこ　刈ゆやとり合ゝよ色いもこ
北枝
孤屋
文泉
翠樹
杜若
渕泉
耶任

虫

ひつまぶり赤く生るいかゝゝ　江戸　風子
[illegible]　芭蕉
[illegible]　[illegible]
虫くもゝしゝ帝く周囲のあるゝ　乙物
雨さまくゝ[illegible]の声　怒風
遠世てり鈴迫ん虫のゝ　玄梅
屋根きくゝ[illegible]の[illegible]　李由
虫くものゝ[illegible]つゝ夜ゝ　勺宣
[illegible]の[illegible]く胴よ[illegible]虫の　正秀
帝虫の[illegible]ある方をたつゝ色　京　かち

[illegible]賀[illegible]今[illegible]の部や[illegible]の部

[illegible]の焼[illegible]低し[illegible]の色　　阪志　高砂

[illegible]の[illegible]の[illegible]の部

秋の[illegible]　　紀伊　和吉

[illegible]と[illegible]　　貞徳

虫籠　　[illegible]　　[illegible]

虫撰　　[illegible]撰[illegible]の[illegible]　　[illegible]

虫合　　[illegible]の[illegible]　　懐素　林湖

虫壺　　[illegible]壺[illegible]の[illegible]　　越前　[illegible]

虫壺の[illegible]　　北[illegible]　　[illegible]

[illegible]や[illegible]　　[illegible]

蟬壺の奪

鷹の山別

[illegible]や[illegible]の[illegible]　　利永

[illegible]　　[illegible]

[illegible]の[illegible]　　[illegible]

[illegible]や[illegible]　　千那

八月

八朔

八朔や一町[illegible]　　圓水

八朔や[illegible]　　乙由

八朔や[illegible]の上も[illegible]　　加賀　舎采

[illegible]の[illegible]　　山只

田面の日

孫仏器
放生會

孫仏器や赤きを後と思ふ哉
礼可長者と人も放生會
屠とる人の殺るもうらぶれて放生会
鐘つくとうらうらと放生会
心花や蓑をつ弟子く放生會
何中に仏ありとくと仏会の月
あそこみな彼岸を三の月
うもくと咲て加よ老ゝや三の月
うれ人の豆腐れ稲や秋の月
月数と汲あかしうるも水鉢

山海　北枝秀
松花也
寺吟
武中　兼碎
乙由
芭蕉
文秀
己百
貞徳
立圃

三日月

月

秋九三

侍宵

月もやゝ梢あゝを拾ふ
京路さびあゝ独むく月夜哉
我翁ゝ糸をとりて照哉
思ひやる友ゝ月の君
おゝくとむくへを月の光り
分ゝ武を捨て淋の月夜哉
酒飲て尺をとる地あり水底を
望もちく望けり月のゝ
旅人武生くれ夜孤枝子
待宵ゝ月尺哉

芭蕉
昌碧
素堂
去来
朝月
露川
竜子
惟貴
少残
文秀

名月

ひとり見せまほしき人の宿
侍宵の一月後の月和
ましまや雲の合間もなき中
ひや一度月今ぞ名残の月
名月や見つくしてなほ歌一夜
気さや池巡めぐりて夜も寝ず
名月よ梅桜田の畦の
明月やつくさまもなう見
名月や池の畦の畦ぬり

牧童
鄙城
伊賀 京松
尺蛇
湖春
芭蕉
〃
〃
信徳
木因

名月や夏の上り松の影
名月や きらり這ひ水の上
明るさや 稲ぬらす 八百 泰北
名月や 海も 世界 ひとつ 金
めぐりや 面よりあふ 月光
名月 富士 仕 富士 富士
気さや 一 夢 墨 夢 見 ほ 月
名月 や 宵 毛 女 光 寒 ら
名月 て 多 多 紀 望 ぶ
気さや ら 名 ふ 秋 の 雪

其角
山風雪
太来
〃
文字
古芳
許六
木節
涼苑
友芳

名月や夜も船出もよい麥　枚乱
名月を名に和歌の際もかうかう　越人
月や西よりかまきも秋の雲　如行
名月や富士入ゆうふで強い河　素龍
名月や魚一尾夜をもこうこう　杜若
名月やりんく山歌掾ら　梢風
名月を誓文の花をのうの花　李由
名月や杉しのつよ秘密　轍士
月やや後次起き表の鳴　酒堂
名月やあきへ入るもよ　布岡

今宵月

名月や掃きもの〳〵松の新　孤涼
三井寺の門たゝかるゝの月　芭蕉
きぬの月あるも出るまつ稲葉ぶ　鶯水
文〳〵ゝ鶯啼きそうゝ　言水
富士見いさ山の陽なきの月　支考
神ありとい〳〵やせん西の月　猪月
和歌宮もなくてそのや今日の月　山峰
やゝ後ゝ山をさゝ後やきの月　乙由
ちかくの孫とゝの月ちゝ望れゝ　烈入
愛よゝ和ゝ夜をあれ月の月　梅路

月見

雲おのく〳〵我やとをもる月入れば
さびしさうてる手もとをて月入れば　芭蕉
音くらし唖のかたゆく月見れば　去来
舟引の道うてゆく夜入れば　〃
川とひ農畑とあらく月見れば　文学
ちりもの新れ月うて入れば　枚翁
麻うち砧打て脊戸に月入れば　支考
向のよれ家も月見て寝て那　浪化
発入農家あり夜をこめて月入れば　曽良
何ホ文教宮の月くらし雨の月　正秀
　　発要

秋七六

名月雨

十六夜

降うるくして宵よりあり名月の雨　尚白
雨の月何ほとも外に降れり　越人
雨雲に衣通姫やうに月　春波
いさらひ雲月うに雲れ出めり　芭蕉
やもり〳〵と出てくいさよひの月の雲　〃
いさよひや湯屋黄昏の宵の雲　〃
いさよひの雪やたうにくて空の色　太祇
いさよひや新敷と翌日光る　太立方
句誹りいさよひの月のいのこれ　跡部
いさよひや主客こ事の目こ入ぬ　近江 佃坊

初潮

初潮や田へ水取り帆かけ舟　嵐蘭

初しほや鳴戸の浪の飛脚舟　凡兆

初しほや貝のよろぼふ川柱　松居

初潮や小雲静井月の影　乙州

秋しほや飛さり行も沖の石　尾張 竹母

野分

あれくて末は海行野分かな　猿雖

猪もともに吹るゝ野分かな　芭蕉

何奴を野分に小家畑も崩る　濁水

一番に案山子をこかす野分かな　許六

鷄頭の尾もつれ乱る野分かな　荊口

秋六七

秋寒

冷々と胡蝶うれしき暴風かな　支考

比叡たかく吹さます野分かな　言水

小原女や野分にむかふ兎角　その

徒杉のうち流をさる野分かな　琴風

姥もろや野分の向ふ柱より　九節

秋の初雲いそぐや乾くゝ　稀志

海うりの千我遠り暴風かな　江戸 東眺

蓑笠衣骨ゑりて戻るのも紀かな　反朱

秋さむや後の山くぬく雁り来　紀伊 淳秀

肌寒し如るゝ虫のはしる髪　伊勢 素因

漸寒

秋さや、ぬるりそろふ寒気
漸さむし　寒よ火とる紙の数　弾坡
色さむし　岩中浅瀬よ押あて　雞泉 調考
や、寒さ　茄子の花も捨る那　天壁
すくさし　もかくさ　生ちまし　茂金也　孤國
外寒や　ほ浅さ　乳根樟　桃山
朝さむや　閼伽　桶ゆふ水の青　尾張 青湖
朝寒や　さら蕎　飯の湯気　京 斗考
入麺の下　樓分　敷寒　乳　芭蕉
友さし　山の寒分　夜寒　丈草

冷し

胡麻

夜寒

木枕り　奥蔵あり　る夜寒
り蛙と　ほろく　引出　敷さむ
方々の　夜寒　押分　敷さむ
菓の板　ろ　ふく　寒　寒
せ碁　り　秋　乳つ　夜寒
い番　居　村　同　る　敷寒　乳
お減の　ま　夜寒　の　子に
地ふる　松　次　く　夜寒　乱
各心の　は　先　寒　敷寒
一人い　ぬけ　く　ま　敷寒

邸麦　正秀
近江 程色
怒風
李由
素行
江戸 汀芦
京 大川
巴静
磐山

駒香

川数も旅のそらなる駒迄へ　若竹　真角
駒曳や岩ふたたく紅葉山　正秀
きりぎりすへ鹿ぬる時ぬれ伏し　曲翠
ひとりもの喰事あるく駒迄のへ　許六
桃燒て　蹴上の流やさくら迄へ　京　附尾
四下ひや寒の志ゐや駒迄　花字
そらふとうぶ彼岸ぶくや桑茶子　上京　如白
後生ふも実の入る秋のひうんぶ　許六
出代や曲突すりおこ切りく去　京　李毛
おうのうやけ雪を菓をさくぬ老

彼岸

出代

秋七九

二百十日

八朔扇

初茶

二百十日一日きりさくろ栗
孤もたく寿す二百十日うれ
八朔や義陸よ新茶を先の茶
茶すり酸ふ語のうらや初茶
山ふくさくさ雨やうれ茶
染もり越へり元を茶ぶ
祝山や蔵の中すうれ
まくさ下茶蔵和り茶
松のそく茶ひ山す初茶
もくさの横ようはゆ茶ぶ

出羽　七里
好和
超波
文秀
真角
江戸　九十
可成
麦今
木郎
北茶ぶ

寿

芙蓉

枝ふり方長日よりかたち新芙蓉ぶり
雨の雫や芙蓉の色翠れ　芭蕉

山あれば沈新きらず芙蓉の形　園解

ものの姿ふ嵐ふ新如ふ芙蓉　其角

木槿の花

木槿やゆ白色しくいやうれ　路通　如舟

日ちんへぬ秋ちくせいの後うち　園入

新蕾ぬ秋つきて尽る葡萄れ　杜栄

蕾ちう嵐しくみる葡萄ふ　茂秋

花野

花野ぬ味の付る如ちふ　文素

花野ぬとつる花野れ　文字

薄

又寒ち道付ふ花野ふ　玄梅

秋のくまち色のつれ　文考

形ハもちくつうれ通ち花野ふ　尾張　瓔玉

ちれ世ぬ盛不れ色のうれ　信濃　青湖

八月のきい新ちう村ち新　不角

押ちて尽ふ水ある嵐ちれ　北枝

駒賣ち出ち、野への色ち新　野角

三日月ぬ尖く春ち嵐ふ　素堂

ちれまく栗ふ似ちる所ふ　その

兎葉の角ちれ月ち赤ち花れ　為明

花薄

秋の野を招かりし尾花
稲つまり穂に形を新尾形
結びの中末の穂をとる花
白毛の尾髪をとる尾
花をく花結をつ尾
なし袖をふりつ人せる尾花
稲つまり声ありてすく花を花
尾撫をくるる尾をもるれもすく
あつ乳うる牛の角りつ尾の種
まつたあ一つよ事をく尾をあ

李南
雪芝
車屋
集角
定雪
許六
文秀
素来
東忠
蝶夢

秋九一

加賀菅

花薄
菅の花
たんちく花
薄花
露草
萬

うち菅の仏手の花
かるのやまちくのつ
薄の上あ毛あ花形
岩京の形も波の菅

七尺ちつ尺や赤形の花の陰
高芝やの月新形くのつ
六の尾八の道あ月も菅つ
林しさの上塗しちつ墨の芝
一本つ花毛寺しつ壁の萬

猿雄
伊勢 雪文
重頼
嵐雪

梅盛
江戸 呂曉
三千風
韋吹
柳居

蔦の紅葉かとゝ見るまでに
芋ほりたの秋よもぎの木の
枯のみを水よりとしをしうくまの
すゝ
蔦の葉の
花を
花さかぬ人
を
ゆく
跡業や
庵の名さへ
侘
賣買の世
教
仏
蔦の花

治天
巴静
京閑
山居
朱松
覓
芝川
梶儀
長法
釈窮
巴静
下野
陳明

野菊

風仙花

鶏頭花

鶏頭
枯
笠
鶏頭や
け
鶏頭
老
夕
鶏頭や
鶏頭の
枯
鶏頭や
鶏頭花

芭蕉
万平
文考
東魯
利江
里冬
紀有
宰雄
巴静
可風

酸漿

ほゝづきは実も葉もからも紅葉哉 芭蕉

鬼灯や弁坊主無淋しさう 乙由

鬼灯や娘子嬉しきこの衣 江戸 百吾

ほゝづきやかくまても秋の海てり 魚汶

ほゝづきはまだ色ぬ根付口軽中 蝶夏

絲瓜

春も早すぐに起きん絲瓜草 松山 春亭

葉鶏頭

濃色く花よたゝむや唐辛子 風草

葉鶏頭くさんかなの咲ふより 江戸 元雪

秋海棠

秋海棠西瓜の色に咲にけり 芭蕉

手拭ひ乃附くや秋海棠 文考

枕辺り何哉かもちや秋海棠 信濃 香郊良

断海棠ふ影水水底かてもら 江戸 眺鶯

鶏上戸

雅分あもきき失ひを鶏上戸 陸奥 蒸里

沢桔梗

乙女の拾ふやさゝ沢桔梗 浮流

葵の花

翁沈く露小屋の崚や葵の花 元蘭

茴香の実

実のあ香ふ茴の所高売れ折 江戸 桐雨

烏瓜

枯込まくれなゐ淋しかくも烏 伊勢 不止

冬瓜

冬瓜や未えくらの庭ねの影 方竪

かゝらを二川洞い の歌人にか 麻文

種茄子

種茄子是以影ま尺くつら夕の札 象貢

種瓢　ふりし花見むかしたゝ瓢　凡兆

〓分根　たく植し花ぼたんも猶子種なへ　和巾

根をわけて牡丹や嬉しその日より　芭静

芋　芋引や綴り月もむかしなき水　山川

芋の茎　芋の葉や月待里のやけ畑　芭蕉

纔にくだ先して足らぬもいなぶ　伊勢　白哥

ぬかご　葉の家藤く捨へハぬかご哉　芭蕉

角扨をらけ休ませ見すてぬかご哉　野径

蝸蝓哀纔て藤くる尾を剃　為有

牛房引　牛房引ありしいの花を漏らし　鷺水

藥掘　かけりや蛍てはる藥掘なり　正秀

鍬の音ふ下や岩にて蕗〓　尾張　巨燈

木賊刈　月影及乾で木賊刈　圃亀

節くの露於ちゝむや木賊刈　伊賀　乙千

木綿取　木の葉取生駒の山に雨の空　其角

小娘の〓〓もる秋のめぐれり　洒堂

若烟草　摘かゝりて〓〓春や若たばこ　尾張　祐山

あたゝこ〓了一ふくの味を〓　知足

間引菜　間引菜の露攪て〓同籠　亀世

菜蒔や二葉の中の生のまゝ　尚白

坂子尉　宜南
稲の花　山峰
露川

けしきや稚のうゑぬは散やすし
忘草の茎とまりうゑのこ
実ゐ刈　塩出おや稲穂ゑ乳
中のくに　巣山子を低し　泳の花

江戸　梨節
丹後　馬吹

さきくこの志ゐ　稲の花
さ波ゑつ　穂ゐ　ふしゐねの花

稲の種　錬夏
落穂　路通
う数ゐ　穂の種ゐ　の数ゐ
種よ　ゐ　世中も田も時も
嵐雪
移ゐの数　珠ゐ　ゐ　穂
木導
賀舟も道絶ゐ　ゐ　落ゐ
亀翁

秋此丸

稲延　辻垂へ　扱迄ゐ　刈　穂ゐ　寿南
稲垣　稲垣ゐ　ゐ　ゐの国へ　ゐ　李由
稲垣や　秋十ゐ　ゐ　一桂
毛見　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　大竜
田川　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　山川
　　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　扶風
　　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　起竜
　　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　素民
　　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　越人
　　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　芭蕉

栗
稗
黍

蕎麦の花　三月の地ち俺くそくしの花　芭蕉

孤大の志ろはくこしやおくしの花　荒花

蕎麦の花様の志賀人れあり　乙州

花蕎麦やうしろ姿の後墨ゑ　支考

大根を傳ひ来しし蕎麦の毛　芳雄

新蕎麦　あそこやはつ俳次と蕎麦はん　支考

蕎山子　ゆ地こや蝶　洞哀　木芳大根　吳服　周如

蕎ちもあるく柄ぬるかしられ　正秀

寺形ゆ人まも歌の蕎山子　桃隣

たくさん拾へあの笑くうしし

秋此六

あれりきへ一役ありさ名蕎麦　涼菟

稗ちゆ俵やちくにゆ蕎ち　風牛

つるゆゆと刈ち歌弦の蕎山子

釜ゆけく面目もり名井に　攻笠

乞食ゆもるく名ゆれ加しし　永休

蕎麦ゆ枕ちゆく向ち死のし氣　支考

一俵ちちてかし農ち矣氣　文章

居死品の下や蕎山子の月の殺り　紀逸

蕎麦の釜品ゆ名く俳物のうしし　桃妖

次風ちひちとかし丸一矣氣

鳴子

山里の鳴子の音の聞てうら敷事山子ぶ
家家の一年つとめし如し
稲穂より穂浪れうち業山子れ
鳥さへあらくくと鳴子引
七十の極もそろ屯の鳴子引
胡蝶ぶ
あれ仲そと鳴子のうしてそ子ちれ
あいくめ方りはれてや鳴子引
あのよりの夜と迫ぶや鳴子引
谷あしに鳴子の調や高の中

遥故
城の声と
伊豆
己石
江戸
横琴
其角
天蛍
飛騨
城下
河次
涼菟
文芋

引板
流水
焼弔
落水

あれ人とも弦志の力やなるこ引
市中より柿一本農鳴子れ
和歌より鶯よりし鳴子ぶ
丈山の庵の高の川こ引板の音
夕つまに蕎麦さく力やり板の音
林しさの庭秋角いく傳鳴ぶ
女の弔はれ板子を聖し流水れ
焼しぶや山田吹夜鳴あし
秋もとや蕎麦水の月来ぶ
芭蕉一滴を蕎し水

鶴爰
鶴の
盤古
元文
史邦
路通
文京
迫の
晋江
不玉
昌房
天保
大虚

搔衣

今夏こゝろく咽喉へ搔衣水
流るゝの無稲と寄りて流しあり
陸子田武こゝろ井ゝ水
林出こゝりてや無しと流れ
母の目へ涙ぬれ川きぬぬれ
形くゝ無眠こゝろきく流れ
子の泣くこゝろやこゝろ流れ
懐引き猿の小袖を抱めて
搔子木のこゝろ聚流れ
家人うゝ玉書ひく搔衣

宋之問 風三毛
黒柴文 写我
北村 蘭園
知及
飛坡
尚公
心川
芭蕉
不卜
孫荒
秋北八

鶉

古巣の火焼ゆゝ地おめこ
芦ゝ屋の折ゆゝ恋流れ
十くゝゆゝはやめく寄ゝ流れ
多京の搔衣式ゝく生ゝ
流こゝけく我者かゝ藤ゝ
ゝ伝ゝと搔こゝて生ゝ
月新ゝく光ゝ流れ
鶉の国ゝてや寄ゝと鳴ゝく
松ゝ人ゝ鳴ゝく鶉ゝ那
栗の種式ゝ寄ゝ流ゝ鶉

秋長之志
季東
京 芦秋
蓮之
後河 乙能
梅富
芭蕉
文考
惟然

鴫

かいくさ川も寒数の鴫　琴風
鳴事すてゝくうへる枕文鴫の秋　嵐蟬
百舌鳥もさけたて声まきく鴫　尭士
なかなかに須つて居ても啼鴫　柳几
牛呵る声に鴫たつ夕へかな　支考
鴫立て日あ蔭る雲ゆきにけり　尚白
鶺鴒も一もし長文字の秋　氷花
かくしひらる立て鴫たつ夕かな　文素
沢の色いそのる淋し鴫の声　尭浮 尭来
鴫たつや芦のうち水夕まくれ　丹後 昌二

燕帰
稲負鳥
初雁

雁

二羽て来て十羽て帰る燕かな　巴静
燕や帰りこては枝もやし　涼袋
色鳥の稲負鳥のねぐらかな　三鳳
初かりや比良て追て帆かけ舟　木節
初雁の帆柱に見て舟　逢空
出入や猿もかも秋なり　柳居
きつてや並て咲く八幡ふりの　千代
雁ゆるや竿よりかなる松林　去来
行く先の名所もありかる雁　猿雖
又来ると鳥村の小田のかり　文考

小鳥 渡

稲主なり角をかくすや小田の下　毛紈

鳥の子の拾ひ合すや黒田　李由

下の段入道殿の宮や舟の上　千角

ことしもきりきり鳥の声　為貫

舟の跡のちらしや鳥の急　涼菟

蓮葉や出頭へ出る殿の雨　牧童

鉢巻の人へ往返ても鳥の影　乙由

川の名にまで照る小田の鳥　江戸 吏登

夕顔や山のきはつら　越中 陽史

船あとし何も海の上をわたる鳥　太然

色鳥 鴫 椋鳥 鶉

蜻蛉へなかれて夜へ渡る鳥　涼菟

朱実なりけりや市場のかる鳥　支考

拾拾稲踏みありしてやかてかかり　吾仲

山風やさらさらかかる鳥の急　文孝

さかる鳥一里く霧横きれ　梨一

はし先の白萩の声もる渡り鳥　賛山

色鳥や喰ふもたる物すか際し　江戸 么芒

ひとつ鳥を東で取りか実なや見ん　河内 山木

椋の実ちる椋の羽音や胡桃割　芭蕉

声空なり海おちしけてふの渡り　江戸 敲水

六雀

四十雀

頬赤

鶺鴒

同公

ひヒ

家載

連花

山うつ[illegible]てアをけうこう福の山

老の秋さらに初ものは十二の

老[illegible]の有るも[illegible]くさ四十雀

夕日さし[illegible]書よりお赤のこゆりを

せ[illegible]とやうつてくもこうの公川赤

夜中[illegible]鶺鴒の尾[illegible]

押合こく[illegible]藝拵よのこう見白ぶ

指竿に[illegible]ゆうの鶺の[illegible]

[illegible]

連花やひこう[illegible]こう松の中

兎士　徳元

芭蕉

江戸　梅花

氷固

凡兆

風外

江戸　水色

柳居

英太

啄木鳥

木つ[illegible]の八まつ[illegible]義経松

木ばくさ[illegible]や[illegible]の名井ち

さ[illegible]くこう[illegible]ぶり[illegible]と啄木鳥

つくこなく尾上の松を啄ふ

豆虫

豆虫八[illegible]ぶ[illegible]日南ぶ

鶏

鶏[illegible]くや八日さ[illegible]赤小松赤

百舌

百舌[illegible]や木[illegible]

鶏時や[illegible]

怪怨こう[illegible]

百舌[illegible]や歯[illegible]て死ぬ

文字

木兒

公中　五芝

万子

文秀

凡兆

家川

野水

[illegible]

若芝

鷄葉竝

小鷹

荒鷹

鷹狩

太刀魚

河原

沙魚釣

[illegible]

三の月や拳ふる小鷹うち

荒鷹狩の羽風ふくこゝ竹・彩ぶ

太刀魚や平家沉りしあらうち

太刀魚や波の玉ちる石の上

毎ぶうりかうや浪の下ゑ入

川さこつるく峰出る河原ぶ

もせつるやへりて高ふ赤ハ鼠

沙魚つるや水村山郭酒旗の風

飛坡

之川

杜國

江戸 芳光

歴史 緑水

芭蕉

涼菟

鼠坡 行三

嵐雪

江鱸

和鱸

鱸

小鰯引

淡船

賣人も義ふくまうたの笑ふ

利鱸や鯛代の旁農孫 乃ち

和さしけや張良略拔ける

さつ鱸や九竜の宮も白波河

はつさけや市之傍く海飛川

釣ふ鱸 鮨や里ふり太刀の新

稲つるの[illegible]ふ鱸つり

引ふく子砂と鳴ふ鰯ふ

船さ入て石ふうふ新川漁ぶ

[illegible]も鰯魚さしりる孔山里魚

宜秋

支考

、

斎治

涼菟

支考

有範

[illegible]

乙州

光雪

落鮎　如行
蜑梁　重頼
水音も蓼に寒しや岩梁　子代
蛇穴入　防風
鹿　文字
上野　三巳
麦水
惟然
北枝
〃

鹿鹿も鹿くれぬる荒もあれば　桃隣
荻刈しや宿に次なる鹿の夢　会来
仲仙うの小萩ちりて荒野角　〃
ひひとと峠鹿参出　芭蕉
南大門遠こまして鹿の声　正秀
しうの夢覚ぬ時角くぬるより　涼菟
鹿の中に孔雀枝の動しに　〃
猿ぬ後中年ちり鹿寒聲　荒雅
鹿寒ほう荻明の鹿や風の声　風睡
小男鹿や角丈寒ちり仏ぬま　真角

峠をしたがく田さしもふる鹿の聲　文子
ふるさとと月夜の鹿や芋畑　紋村
拾ふく落ちうるや蕎の角　野明
伸とる臍ら西しき志ゝ恋ゝ　無九
山賀くらく限芝深し鹿の聲　東恕
鹿の声つ田角ふうらもう　乙由
鹿ゝ声ゝかゝ山を泊ゝ　〃
一ゝ〜ゝ水一すゝ八鹿ゝ殿　老士
鹿の鳴引抜しゝや明の山　春波
ゝゝ鹿二の月夜ゝ　乙鶏

蕎笛　駿河　潼山
竜田姫　ゝ　蝶夏
九月　ゝ　樹水
重陽吉　ゝ　乙仝
ゝふゝ東て業作ゝ月ゝ　ゝ　梨明
余の芋ゝた芋ゝ拾ゝ月ゝ　二水
かゝゝ鹿の芋ゝ芋ゝの鳴　知及
曙や赤ゝ鹿ゝ　文子
岩峰や京ゝ一星ゝ拾ゝ峠
蕎笛の上ゝ武つゝ花ゝ
ゝゝ笛やゝ鹿ゝ男峠
その色ゝ秋海棠や竜田姫

栗の名句
菓の酒

菓

猿も木よりて菓の花白し　吏荊
菓や日ぬれそめし菓九酒　魚養
二重うす白ひみもくうすくの酒　かが豊水
渡なのうつり菓の蓋ふ　巴蕉
もやく咲け九日もうす菊の花　丶
熟しの菓秋とやくくの菓紫花　支考
菓の悪高く赤くもうす色　丶
黄菓ふ菓の所公色の色　光雪
菓の岳や熟よ赤菓よと　其角
ふやくく黄菓の年の一稿ち　由平

菊合

菓の名歌

月の名まくなる月の花
菊の色菓の白ふ色かう
一色や仏菓の色さう
拾ふ一ふう歌詠在や菓の色
氏せの歌くうの歌の色
菓咲くくまふとの色詠高ふ
屋くくふ秋の名ふ菓合
菓合番に色くくハなう花
名歌や熟よ咲くれの菊の色
花色歌や老り菓の花の歌

木雨　知七　峻龍　千山　木兎　文代　吐月　秋菊　陽和　蘇麦

雜

柿のもとく 跡の接穂 ちりより
清りても 仁のやうあり 後の八分

如泉
傳表 一露
芭蕉

外の市

外宮さくらかの方月ん分
飯河ふく 外宮枕や市の月

柳糸
浮風

後月

風ちう山 松露指りん十三夜
菓の後 月ん月 月の月

支考
涼菱

りく 木曽 月 月
きやこの火燒 月や后 月支

斜岳
正秀

後月の月 月の月
菓子系 かなり 月 月

宋邨

秋四十六

雜部 后の月 出く 月 月 月
十三夜の 月 月 月
外菓部 月 月 月 月 月 月 月
佛山武 月 月 月 月 月 月 月
木曽の 月 月 月 月 月 月 月
後の月 月 月 月 月 月 月
御山山 月 月 月 月 月 月
第八 月 月 月 月 月 月
三日月の 月 月 月 月 月 月

游刀
杜若
武角
百里
大会来
芭蕉
豊流
乙由
尤士
蓮之

あれはてし人家のしるや後の月　文象
二度あるく紀行の中よ后の月　巴風
豆と雀と豆の花も詠むや　老賀
草畑を荒しまはしや豆の月　司馬
寺遷文殊のうち五百年　巴蕉
御遷宮　立吟
飯井戸まうでも稲すめ　李由
雀鈴と
紅葉歟祭
残菊

菊花ぶるし　強通
紅葉ぶし　北枝

十日菊
紅葉

水仙より仕合せてやのあり菊　涼菟
いさぐ人の花つ[illegible]菊　芭蕉
冷さとや十日の菊より酒と菊　伊賀　[illegible]
紅梅より十日菊きくの白乳　[illegible]
うら散川表とちりつる菊ぶし　木因
見る花羽もあり紅葉ぶし　友考
花ちりもあり紅葉ぶし　〃
山路の傍うゑ添ふ菊ぶし　其角
菊の中一夕ひとり紅葉ぶし　一貞
茶水ぶ蓋波うくかたちあり　乙由

梅の葉
橘の葉
桃の葉
柳の葉
柿の葉

まさきの山ちりやまがるる
おもしろく秋もに染りぬる
子供の好みとて柳の葉
長の破れさくさくれ紅葉
おもしろ狂て葉の枝下る葉
葉の葉の化粧りなる柳の葉
ちりうせ散ずにぬるその葉ぶ
ちるぶ柿の色
葉と深くあるりうす柳の葉
枝の葉いろめ侍るの紅ちり

戎中 近号
桃源
支子
戎中 風吹
桃義
呂拍
義
方流
宗澄
光二
重色

色づく松
鶏柿
栗
榛

色づく秋まあるとう松の色
紅葉ちも遠き松花男坊ち
葉の葉柳葉ぶ乳拾ぶて根者ぶ
兒達の様て柳の根者乳
いう栗や葉ぶる合ぶく突く迎
焼栗和尚ぶ乳ぶ出ぶ
いのくちや柳ぶ出ぶく出ぶく
葉栗や坊ぶる尾て柳葉青
猿もこの名や栗葉葉ぶ言
ちぶはもとありくよく新撰川

紀あ 加十
加源
北觀
俳葉
若藤
尺子
風吹
己鏡
一福
江戸 梅里

推　柿　渋柿　熟柿　密柑　九年母　金柑

[illegible]り推さきゝて後ゝ
柿の方ゝ[illegible]
方ゝ柿や[illegible]く[illegible]く尺[illegible]
渋柿や[illegible]の[illegible]の数[illegible]へ
[illegible]り秋の[illegible]熟柿ゝ
山うゝ[illegible]
ゝ蜂の[illegible]や[illegible]密柑
桐[illegible]
九年母[illegible]
金柑や一ゝ小判のゝ[illegible]

尺[illegible]　利牛　京　乃文　巴陵　文考　為有　芭蕉　拾伊　湖鶴　乙由　紀の　文鯉

柚　柘榴　榧　胡桃　梨　椽　団栗

[illegible]柚味[illegible]
柿[illegible]
[illegible]
榧の[illegible]
山[illegible]
[illegible]梨や幾秋の夜の[illegible]味
[illegible]
椽の[illegible]
団栗の[illegible]
[illegible]

[illegible]　濃尾　雲江　冥南　[illegible]　そ[illegible]　乙[illegible]　四国　芭蕉　牡年　為有

桜の実　ふくしま　第ふりて　桜のこと
木ある　仏　桜も　小さく　桜実に
梅檀実　東の　梅檀の　実　ほ　ほ
椿の実　落ちて　花　ら　細し　椿の実
葉桜子　葉　桜子　樹　ある　ぬ　ユ
南天の実　南天や　赤　実　ら　の　山　の　黒
芋茎実　芋茎　の　や　芋　く　散　も　茎
梅蝶　ふ　の　や　ら　ち　や　梅　ち　た
ひ　く　の　花　の　ら　も　梅　ふ　実
ら　く　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち

[illegible]　[illegible]　杜國　豊かの　[illegible]　暢好　真甫　凡兆　加生　[illegible]　風虎　乙由

[illegible]　文考　夢太　法九　[illegible]　其角　江戸　[illegible]　[illegible]　我孟　[illegible]　[illegible]

[illegible]山の錦　稲つるの　[illegible]　九京　[illegible]　[illegible]　[illegible]

うら枯　うら　[illegible]　うら　[illegible]　うら　[illegible]

秋牡丹　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

思ひ草　思草さくへと折り秋あきぬ　素龍

都ひ草　思ひ草よし葉草なと云わし　信州 素秋

龍膽　天高し龍膽んとらぬ花ならぬ水　木導

芦の穂　あし原や芦の穂しろく散る衣　路通

穂から　乱れとし芦の穂の葉や芦の花　如枝

万年青　常んとして万年の中に見ゆ　許六

秋好の旅路をつれしき行く　鬼貫

草の葉に芦花もの書くゝ　雨豊

松露　水そはけく来とう露も芽ふ　紀州 甲乙

松原の旅くも残さん松露かな

豆引　花傍に秋くれかゝく松露かな　越前 眠山

さや豆　豆引し跡や蕨花穴をかな　童行

香蕈　鞘豆花さくとけ出て花に　桃山

松茸や知らぬ木の葉のへばり付　芭蕉

香茸やうわはほうしと松の影

茸狩やあぶなきことに夕時雨　惟然

舞茸　初茸やそれくしひとつはりふ　京 几董

いくち　ものの音物おしし起いく空へ　探志

榎茸　柿木もかくれて榎茸　嵐雪

初茸　初茸やまだ日数経ぬ秋の露　芭蕉

蕈狩

蕈うるや泉の出入り寄かるく　之角
蕈うるや屋の敷と教えれば　正秀
うそうそと笑くあるや菊うら　山樂
蕈うるやいくらも見るる新　剣合
蕈狩や赤蕈しる人の顔　薩摩 三枝
蕈かるやあるる所おくあるる中　千代
稲の出ちるとやふる晩稲哉　友秀
ほうしくと赤くなる晩稲うる　路徒
かつくて畠山なる晩稲　孫愛
新米　新米のあるるやきるる米　吳服 見良

新酒

弱もるる祝ひの赤ひ米　一商
我りしく新酒の人の祝ひ　光豊
見ひるる奇白き間へ新酒　之角
稽くさ祝ひや酒もひるる　孔雀
徒然の徒の徒たく新酒の　呂諸
秋の蕈るる蕈るる蕈るる新酒　徳丸
濁り酒　濁り酒いさ立ちて新酒　伯元
恨る祝ひの酒の濁り酒　葵太
石義新酒　水酒て秋ちとへく紫新　武中 喜入孫
尾越の鶴　尾とるる鶴や奈良の湖　孟遠

初鴨
霧簾
熊栗の梢
網代守
星月夜
露霧
霧嶋

さゝ川鴨や田每見えく浪の上　東都 李完
船霧や紙ぐくく簾や夢あり　鏃刀
飛脚乾場家にかゝやおしろ守　俳諧 尚古
星月夜光のうきさく大紀さよ　大隅 雲遊
三ヶ月の影も芒け出星ろ秋　七峨
何ふうも石積ゑし住し月夜　重茂
霧霧のり赤山の色もく見えさ光る　小枝
舟貴く酒よう入ろ霧しぐれ　荊口
細き川舟中の藪や清む時雨

鴫
長き夜

柿の葉わり生をかへしてや霧の明あ　江戸 菊径
引やりの袂かくりや霧しぐれ　園舟
鉄線の垂ねよろ知清ちしく秋　淺川
偖ゝ鴫も鬼ぬ耳出てゑてゝ　眞爾
鴫ろや琵琶りあさむ佛の裏　芭蕉
初夜と思ふあくるふ秋よ暮はやら　来山
秋のしや下古葉のあかつきに　好春
冬ぬ法あさく晦夜鹿立ふ　和及
秋ぐ毎長廉珍しくさ秋よく　任口
家の月に夜ゝ長し猿の声　北枝

秋さらさへらしなきあ[illegible]
秋の夜ふり[illegible]ぬ人のそらさら
一さかふり[illegible]まぬ秋のもきれ
秋嶺の[illegible]ぬ[illegible]何の山
子の法ふり[illegible]賀[illegible]秋も
一[illegible]ひ[illegible]ぬ[illegible]夜そ[illegible]
[illegible]月[illegible]秋の[illegible]
[illegible]秋[illegible]
[illegible]秋[illegible]夜の[illegible]
[illegible]秋や何[illegible]水[illegible]

一笑
許六
李下
文蓉
冰花
秋水
賀
雲口
[illegible]
[illegible]
松岡
[illegible]
桃溪

秋八十四

秋の雲

枯枝ふり鳴て海ふり秋のくれ　芭蕉
秋の夕男[illegible]法[illegible]秋[illegible]　支丸
[illegible]秋[illegible]月[illegible]くれ[illegible]　木因
[illegible]秋[illegible]酒[illegible]秋のくれ　野坡
[illegible]秋[illegible]秋の暮　[illegible]角
[illegible]出[illegible]秋[illegible]　嵐雪
[illegible]二人の[illegible]鶴の[illegible]　太芳
[illegible]秋[illegible]なる[illegible]　[illegible]
中[illegible]人[illegible]やあ[illegible]　和及
秋[illegible]何や[illegible]人[illegible]　越人

許六　山店　一笑　千春　栄姿　天弓　角上　芦本　孟志　乙由

秋五十六

行秋

行秋と名をきめそめて秋のくれ　徐菱　亜蕉

行秋やあるよりまゝふ三布蒲衆

去年の秋行くとて秋くれぬ　文孝

行あとの四日ゝ過ぎくれ　乙物

行く秋を殺生の糸に結ぶ　史邦

ゆく秋を殺生と殺生の絶ぶ　吾仲

行秋や仮ずまひの御所　鮫休

行く秋よりくれぬ生の寄まくれ　洞帆　更法

行秋や鶴ゝくあるの道　麓元

り秋や胴代りとしら毛水の玉　殿又
り秋やうしなとさるり秋の夢　宝暦　蓮芳
ひく烏やひとり月とる松の青　千代
りあれや田を堅揆の道つ茶　李宝
ぶく秋やうしろ〳〵後の後の色　烏光
冬ぶるまり支度まつ〳〵錦葵　幸方
冬待や豆乃る松も植ゑくう　吾東
蕎麦ふも白ひ花もう九月盆　沈見
ちく業の掛ゑ畑や九ゑ　舎雅

冬を待

九月尽